

ICTを活用したイノシシ被害対策の効率化(沖縄県国頭村)

- ICT機器を活用した遠隔監視、遠隔操作できるカメラ付き囲いわなを導入(ロボットまるみえホカクン)
- 警戒心の強い個体を増やさないために、ICT囲いわな設置場所を実施隊、農家等と調整しながら慎重に選定
- 出没エリア、時間帯、イノシシの動向の可視化によりイノシシの多頭捕獲が可能になり、捕獲効率、作業効率が向上
- 見回り回数の減少による負担軽減を実現

取組内容

- ICT囲いわなを導入し、実施隊によりイノシシの捕獲を実施



囲いわな(6m四方)



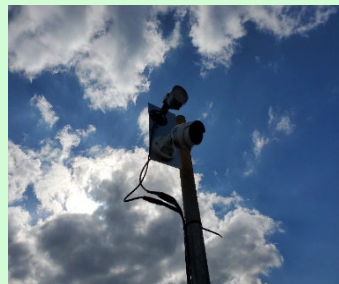
捕獲したイノシシ



自作の囲いわな(3m四方)



通信関係



カメラ



ソーラーパネル

成果

- くくりわな、箱わなで捕獲すると群れのイノシシは警戒してわな周辺には近づかなくなってしまう、捕獲が困難になるが、ICT囲いわなの導入により多頭捕獲が可能に
- カメラの映像でわなを確認することができることから、見回り回数が減少し、わな内にイノシシが複数いることを確認してから仕掛けを作動させることが可能なため、捕獲効率が向上
- 令和元年度から令和3年度のICT囲いわなによる捕獲実績は14頭

今後の取組

- 実施隊と連携し、ICT囲いわなによる捕獲活動を継続

ICTを活用したイノシシ被害対策の効率化(沖縄県国頭村)

きっかけ・背景

- イノシシの生息範囲は広域にわたるとともに、活動時間が猟銃使用の制限されている夜間になるため、思うような捕獲成果が上がらず

課題

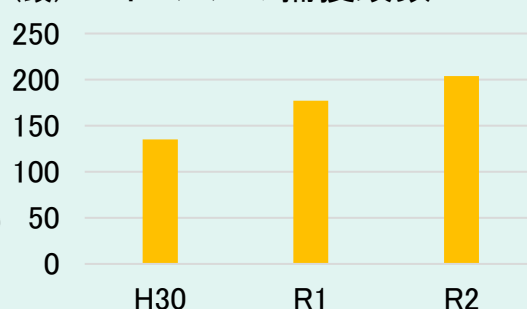
- 実施隊の捕獲にかかる負担が増加
- 銃猟使用が制限される夜間に活動するイノシシの捕獲

Step1 ICT囲いわな導入(H30)

- 遠隔監視、操作が可能なICT囲いわなを1基(6m四方)導入。設置場所が人の出入りが多い場所だった為、捕獲実績はなし。設置場所の選定が重要

導入経費	約160万円/基
通信費	約1万円/月
見回り回数の軽減	週4～5回 → 週1回
捕獲頭数	135頭(H30) → 177頭(R1)

(頭) イノシシの捕獲頭数



Step2 設置場所の検討(R元)

- 設置場所は、人の出入りが少なく、群れで生息している場所が適当であると判明。実施隊と連携しながら場所の選定を慎重に行い、囲いわなを設置した結果、14頭を捕獲

取組の特色

- 誘引エサは種豚用飼料及びトウモロコシを混ぜたものを使用し、始めは捕獲器から3mほど離れた場所にエサを置き、イノシシの警戒心を徐々にとき捕獲器内に誘導
- 自作捕獲器のカメラは捕獲器内のみの映像になるので、出入り口周辺に暗視カメラを設置し、イノシシの動向を確認

取組による成果・効果

- ICT捕獲基の導入により遠隔操作による管理が行えることから、見回りの負担軽減につながり、多頭捕獲が可能に
- 令和元年度のICT囲いわなによるイノシシの捕獲実績は14頭(設置する箇所によっては捕獲実績がないことも。設置場所が重要であるため、農家からの情報も積極的に取り入れ、実施隊と連携して慎重に選定)
- 令和3年度は設置場所を移動し、既に4頭捕獲。継続して根気強く対策を推進